



輸血前感染症検査の取り組み

手術の場合、術前に検体を保管する事で採血漏れを無くした

すぐに使用する場合、感染症検査の確認ができる画面を構築した

感染症の検体は、クロス血と同時に採取する事で、採血者に分かり易くした

輸血実施後の検体到着確認は、輸血担当技師が行う事で、検査漏れを無くした

検体の保管管理も輸血システムで

- ID入力
- 初回輸血日を選択
- 登録番号の取得12桁
(西暦・月・日・No)
- 保管場所指定
- 検体登録
- 検体ラベル印刷
(2枚:検体保管用、輸血後感染症検査受診のご案内)
- 輸血後感染症検査を実施する時期の起点となる

01234567
ニッセキ ハナコ
日赤 花子
保管番号 : 201501310001
保管場所 : 輸血 場所一3890

保管検体検索画面

診療科別 輸血前感染症検査 実施患者リスト

輸血後感染症の検査項目は(●)です、3ヶ月後に検査して下さい。

平成26年11月分					
診療科	呼吸器内科	輸血実施日	患者ID	検査項目	
主治医	患者名	平成26年11月02日		● HIV核酸増幅検査	
		平成26年11月07日		○ HCVアントител	
主治医	患者名	平成26年11月07日		● HCV核酸増幅検査	
		平成26年11月11日		○ HCVアントител	
主治医	患者名	平成26年11月07日		● HCV核酸増幅検査	
		平成26年11月07日		● HCVアントител	
主治医	患者名	平成26年11月20日		● HIV核酸増幅検査	
		平成26年11月20日		● HCVアントител	
主治医	患者名	平成26年11月20日		● HIV抗体	
		平成26年11月20日		● HCV抗体	

輸血後検査を促すお知らせ

平成26年5月まで	平成26年6月から
電子カルテに付箋	輸血後感染症アラート通知機能 チェック期間: 63日～150日

検査オーダーを起動しますか？

アラート通知機能設定による不具合

輸血後の検査項目が3項目必須となっている

B型肝炎でHBVを測定しない場合

C型肝炎でHCV-Agを測定しない場合

診療科毎に期間が設定されている

2つの診療科から輸血後の検査が提出される

3か月経っていないのに輸血後の検査が提出される

当院の現状

平成26年1月～10月実施

科	死亡率	転院率	未実施率	実施率
内産科	10%	10%	10%	70%
麻酔科	10%	10%	10%	70%
皮膚科	10%	10%	10%	70%
神経内科	10%	10%	10%	70%
産婦人科	10%	10%	10%	70%
リウマチ科	10%	10%	10%	70%
脳神経外科	10%	10%	10%	70%
循環器科	10%	10%	10%	70%
小児科	10%	10%	10%	70%
呼吸器	10%	10%	10%	70%
泌尿器科	10%	10%	10%	70%
脳神経外科	10%	10%	10%	70%
リウマチ科	10%	10%	10%	70%
産婦人科	10%	10%	10%	70%
外産科	10%	10%	10%	70%
消化器	10%	10%	10%	70%
整形外科	10%	10%	10%	70%
血液内科	10%	10%	10%	70%

アラート通知機能導入後の効果

（転院数 + 未実施数）

（輸血前検査数 - 死亡数）

アラート表示の対象期間

当院の懸案事項

- 血液内科の場合、治療が始まると輸血が継続して行われるために、輸血後の検査をするタイミングが分からないので、検査は医師の判断に委ねている
- 整形外科の場合、未実施の81%が転院された患者さんが占めていて、多くの患者さんは来院されないという現状

